

詩を声に出して楽しむ

|| 音読・群読によって詩の心に触れる ||

低学年用教材

かたつむり リューニー作

かたつむり

おかしいな

めだまが つのの うえに ある

おかしくない

おかしくない

めだまが うえなら よく みえる

かたつむり

おかしいな

おうちを しょって あるいてる

おかしくない

おかしくない

てきにあったら もぐりこむ

かたつむり

おかしいな

おながが そつくり あしに なる

おかしくない

おかしくない

あしが おおきけりや あんぜんだ

かたつむり

のろいなあ

うごかないのと おんなじだ

のろくったって

のろくったって

とまらなけりや いいんだよ

かたつむりと、それをからかう子ども
あるいは、

かたつむりを見ている二人の子どものやり
とり

というようなイメージで読み合う。

クラスや班をかたつむりグループと子ども
グループで分かれてやってもよい。

立ってやると、自然に動きも出てくる。

きりなしうた 谷川俊太郎

しゆくだい はやく やりなさい
 おなかが すいて できないよ
 ほっとけーきを やけば いい
 こなが ないから やけません
 こなは こなやで うってます
 こなやは ぐうぐう ひるねだよ
 みず ぶっかけて おこしたら
 ばけつに あなが あいている
 ふうせんがむで ふさぐのよ
 むしばが あるから かめません
 はやく はいしやに いきなさい
 はいしやは はいへ いってます
 でんぼう うって よびもどせ
 おかねが ないから できないよ
 ぎんこうへ 行って かりといで
 はんこが ないから かりられぬ
 じぶんで ほって つくったら
 まだ しゆくだいが すんでない

くちやかましいお母さんと口答えする
 子どものイメージ。

最初から口やかましくまくしたてるお
 母さん、最初はやさしく言っていたの
 にだんだん腹が立ってきてどなつてし
 まうお母さん。子どもも、反抗的に言
 う子、のらりくらりとかわしていくひ
 ねくれた子など、様々なバリエーショ
 ンで楽しめる。

さかなやの おっちゃん 畑中 圭一

さあ こうてや こうて
 ててかむ イワシやでえ
 おてて かみまつせ
 ほんまかいな
 おっちゃん

さあ こうてや こうて
 とれとれの イワシやで
 まだ およぎまつせ
 そんな あほな
 おっちゃん

さあ こうてや こうて

4～5人グループでやると良い。
 魚屋のおっちゃんと買い物の掛け合
 いを楽しむ。

びんびんの イワシやで
びぴんと はねまつせ
もう やめとき
おっちゃん

かえるの うたの けいこ
くさの しんぺい

さあ これから うたの けいこだ。
こえの いい ぐりまは たって そう いった。

へぎやわろッへぎやわろッへ
そう そう。

へぎやわろろろりッへぎやわろろろりッへ
そう そう。
ぎやわろッ ぎやわろッ ぎやわろろろりッ

そらには まんげつ。
まんげつの まわりには おおきな かさ

さあ みんないっしょに げんきにうたおう。
いち にい さあん。

ぎやわろッ ぎやわろッ ぎやわろろろり
ぎやわろッ ぎやわろッ ぎやわろろろり
ぎやわろッ ぎやわろッ ぎやわろろろり

蛙のリーダーぐりまと
仲間達、そしてナレーターと
いう設定。

練習につれて鳴き声がぐんぐん
盛り上がっていくイメージ。

最後は、声がそろった斉唱でも
いいし、めいめいが自由に鳴き
ながらハーモニーを作る混声合
唱でもおもしろい。

かぼちやのつるが 原田 直友

かぼちやのつるが
はい上がり
はい上がり
葉をひろげ
葉をひろげ
はい上がり
葉をひろげ

かぼちやのつるがぐんぐんのびていく様を群
読で表現させる。
班ごとに子どもたちで読み方を工夫させて
も十分やれるだろう。
班ごとの発表を聞きながらまた新しく作り
直していくという風にすればいい。

細い先は
竹をしつかりにぎって
屋根の上に
はい上がり
短くなった竹の上に
はいあがり
小さなその先たんは
いっせいに
赤子のような手を開いて
ああ 今
空をつかもうとしている。

3, 中々高学年用教材

第八満月の夜の満潮時の歓喜の歌

草野心平

十四人以上の人物が同時に唱ふべき詩

ぐりりににぐりりににぐりりにに
るるるるるるるるるるるるるる
ぎやっぎやっぎやっぎやっぎやっ
ぎやるるろぎやるるろぎやるるろ
げぶらららららげぶららららら
りりりりりりりりりりりりりり
ぎやっぎやっぎやっぎやっぎやっ
んんんげげんんんげげんんん
ごりらごりらごりらごりらごりら
ぐりけっぶぐりけっぶぐりけっぶ
わひわひわひわひどどどわひわひ
げぶらららららげぶららららら
ぐりっぐりっくいいいいいい
がりぎりがりぎりわひわひわひ

田んぼで鳴き騒ぐ蛙のイメー
ジで、わいわいやればよい。

風景 山村暮鳥

群読例

純銀もざいく

いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いかすかなるむぎぶえ
 いちめんのなののはな

一連、1，2行は一人ずつの読み

3，4行は五人ずつのグループで交互に読む
5，6行は学級の半分、半分の交互読み。

7行目は全員で読む。

8行は一人、9行も一人

二連

10行目から16行目までは、全員がかつて
にごちやごちやと読む。17，18は一人ずつの読み。

三連

19，20は一人ずつの読み。21は一人。

22は五人。23は一人24は十人。25は全員。

26，27は一人ずつの読み。

いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 ひばりのおしやべり
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 いちめんのなののはな
 やめるはひるのつき
 いちめんのなののはな

河童と蛙 草野 心平

るるるん るるるん
 るるるん るるるん

一人で
 4人ぐらいで

つんつん つるんぶ
つるんぶ つるん

河童の皿を月すべり。
じやぶじやぶ水をじやぶつかせ。

かほだけ出して。
おどつてる。

るんるん るるんぶ
るるんぶ るるん
つんつん つるんぶ
つるんぶ つるん

大河童沼のぐるりの山は。
ぐるりの山は息をのみ。
あしだの手だのふりまわし。
月もじやぼじやぼ沸いてゐる。

るんるん るるんぶ
るるんぶ るるん
つんつん つるんぶ
つるんぶ つるん

立った。立った。水のうへ。
河童がいきなりぶるるつとたち。
天のあたりをねめまわし。
それから。そのまま。

るんるん るるんぶ
るるんぶ るるん
つんつん つるんぶ
つるんぶ つるん

←

もうその唄もきこえない。
沼の底から泡がいくつかあがつてきた
兎と杵の休火山などもはつきり映し。
月だけひとり。
動かない。

8人ぐらいで

・全員で続ける。

一人
一人
一人
（ただし、朗読の子の声を
つぶさないでいどの
きさで）

一人
一人

←

○全員で

交互に。（男・女で交互に）

一人
全員
一人
全員

輪唱のように「るんるん」をずらして
読む。

大騒ぎのイメージ

一人
一人
一人
一人（

全員で
半数でい
8人ぐらいで
4人ぐらい

一人
一人
一人
一人
一人

ぐふうと一と聲。
蛙がないた。

一人
一人

あめ 山田 今次

あめ あめ あめ あめ
あめ あめ あめ あめ
あめは ぼくらを ざんざか たたく
ざんざか ざんざか
ざんざん ざかざか
あめは ざんざん ざかざか ざかざか
ほったてごやを ねらったたく
ぼくらの くらしを びしびし たたく
さびが ざりざり はげてる やねを
やすむ ことなく しきりに たたく
ふる ふる ふる ふる
ふる ふる ふる ふる
あめは ざんざん ざかざん ざかざん
ざかざん ざかざん
ざんざん ざかざか
つぎから つぎへと ざかざか ざかざか
みみにも むねにも しみこむ ほどに
ぼくらの くらしを かこんで たたく

- 1 全員
- 2 "
- 3 一人
- 4 雨グループ
- 5 "
- 6 "
- 7 一人 (雨グループ、バックで)
- 8 一人 ざんざか ざんざか
- 9 一人 ざんざん ざかざか
- 10 一人
- 11 全員
- 12 "
- 13 雨グループ
- 14 "
- 15 "
- 16 一人 ざかざか、は雨グループ
- 17 一人 (雨グループバックで)
- 18 一人 ざかざん ざかざん
ざんざん ざかざか

強い雨から、次第に弱く

お祭り

北原 白秋

わっしよい、わっしよい、
わっしよい、わっしよい。
祭だ、祭だ。
背中に花笠、
胸には腹がけ
向こう鉢巻、そろいの半被で、
わっしよい、わっしよい。

祭りでみこしをかついでいるイメージで
楽しむ。

みこしや、警護の大うちわなども作って
祭り気分を演出してやると一層おもしろ
い。

わっしよい、わっしよい、
わっしよい、わっしよい。

御輿だ、御輿だ。

御輿のお練だ。

山椒は粒でも、ピリツと辛いぞ。

これでも勇みの山王の氏子だ。

わっしよい、わっしよい。

わっしよい、わっしよい、

わっしよい、わっしよい。

真っ赤だ、真っ赤だ。夕焼け小焼けだ。

しっかり担いだ。

明日も天気だ。

そら揉め、揉め、揉め、

わっしよい、わっしよい。

わっしよい、わっしよい、

わっしよい、わっしよい。

俺らの御輿だ、死んでも離すな。

揉め、揉め、揉め、揉め。

わっしよい、わっしよい。

わっしよい、わっしよい、

わっしよい、わっしよい。

廻すぞ、廻すぞ。

金魚屋も逃げろ。鬼灯屋もにげろ。

ぶっかったって知らぬぞ。

そら退け、退け、退け。

わっしよい、わっしよい。

わっしよい、わっしよい、

わっしよい、わっしよい。

子供の祭だ。祭だ。祭だ。

提灯点ける

御神燈献げろ。

十五夜お月様まんまるだ。

わっしよい、わっしよい。

わっしよい、わっしよい、

わっしよい、わっしよい。
あの声何処だ。
あの笛何だ。
あつちも祭だ。こつちも祭だ。
そら揉め、揉め、揉め。
わっしよい、わっしよい。
祭だ、祭だ。
山王の祭だ。子供の祭だ。
お月様紅いぞ。御神燈も赤いぞ。
そら揉め、揉め、揉め。
わっしよい、わっしよい、
わっしよい、わっしよい、
わっしよい、わっしよい、
わっしよい、わっしよい。

どいてんか 島田陽子

どいてんか
どいてんか
おんなのみこしや
どいてんか
みんなではやせば
つゆぞら はれる
わっしよい わっしよい
どいてんか
どいてんか
おんなのみこしや
どいてんか
みんなではしれば
うなるよ かぜが
びゅうん びゅうん
どいてんか

祭りみこしの女の子バージョン